

「要望（口利き）等」の記録、公開等に関わる制度の策定と運用を！ 改めて呼びかける！

伊藤久雄（NPO法人まちぽっと理事）

口利き「見える化」実効性は 汚職受け江東区検討―「不当」のみ記録→職員が忖度の恐れ
東京新聞（12月6日 社会面）

標題は、12月6日（火）東京新聞社会面の記事の見出しである（本文はURLをご参照ください）。記事は編集局社会部の佐藤航記者が書かれたものであるが、その取材の過程で私（伊藤）も何度か電話取材を受けていたため、私のコメントも載っている。

記事は汚職を受けた江東区が「不当、威圧的な働き掛けがあった際の記録制度」について、他の自治体を参考に検討している」との9月議会における山崎区長答弁を紹介しながら、関東地方の「口利き記録制度」の導入状況とともに、全国市民オンブズマン連絡会議の調査、江東区の部課長職員アンケート、区議会による区議アンケート調査などを紹介している。

私のコメントは「不当」のみ記録する制度について、「職員が判断に迷い、議員に忖度して報告をためらう恐れがある」と指摘したことを取り上げている。私への取材は、令和2年6月に府中市議会の議員の働き掛けによっておきた官製談合防止法違反で職員（当時部長級）が逮捕、起訴され、地裁で議員、職員ともに有罪判決を受けたことを受け（議員は辞職、職員は失職）、いくつかの提案をしていたこと（まちぽっとレポート、参考資料参照）を佐藤記者が読まれたからであった。

「口利き記録制度」の検討は、官製談合事件など議員の働き掛けによる職員の予定価格漏洩などの発覚を契機に検討、策定されるのが通例である。江東区が最終的にどのような制度を策定するか分からないが、全国の同様な制度未策定の自治体には事件が起きてからではなく、事件を未然に防ぐために、検討をすすめることを求めたい。また、その運用にあたっては、他の制度との連携などが重要であることを付記したい。

参考資料

「要望（口利き）等」の記録、公開等に関わる制度の現状と課題
（2022年7月8日、まちぽっとリサーチ）

<http://machi-pot.org/modules/project/uploads/20200708.pdf>